

姉妹交流20周年記念交流会を開催しました ～思い出と感動のひととき～

去る5月29日（土）CWA と県との共催による『姉妹交流20周年記念交流会』がポートプラザちばで開催され、姉妹交流に関わりのある方々68人が参加し、和やかで賑やかな交流が繰り広げられました。また、会場内では、ウィスコンシン州との交流にまつわる写真、資料、パネルなどが展示され、参加者の関心を集めました。

開会に当たって大石道夫CWA副会長及び大竹秀幸県総合企画部次長から、20年間にわたる経済・教育・文化などの交流を支えてきた関係者への感謝と更なる交流への期待を込めた挨拶があり、続いて、ウィスコンシン千葉委員会の宮崎貴美子さんからバーバラ・ロスウェル委員長のお祝いのメッセージが読み上げられました。



《写真左上》
大石道夫 CWA 副会長
《写真上》
大竹秀夫総合企画部次長
《写真左》
バーバラ委員長のメッセージ
を代読する宮崎貴美子さん



《写真上》
浅沼明夫さんのグループ
による三味線演奏

《写真右》
鹿島春海さんのスピーチ

《写真下》
伊東万里子さんと里見
香華さんによる人形劇



乾杯、知事のウィスコンシン州訪問結果の写真紹介、そしてしばらくの歓談の後、県民謡協会の浅沼明夫さんのグループによる三味線の演奏を皮切りに会場は徐々に盛り上がり行きました。

2番手に登場したのが元キッコーマンの鹿島春海さんで、キッコーマンがウィスコンシン州に工場を設立した際にご尽力され、現在CWA会員の鹿島さんからは、滞在した8年間を振り返って、千葉県との33倍の面積があり、広大な自然に包まれたウィスコンシン州の魅力を「人間より牛の方が多州と聞かされていた」、「ウィスコンシン州の隣人たちは、昔の日本人のようにうるさいくらい親切で明るい」などウィットに富んだ話が披露され、会場は一挙に和やかな雰囲気となりました。

続いて、2003年に文化使節団として派遣された伊東万里子さんと里見香華さんが、からくり人形を携えて登場し、ウィスコンシン州の高校生たちの前で演じたチャンバラ劇を披露していただきました。武士姿の2体の人形は、「我こそは、達人である」の英語バージョン「アイ アム ナンバーワン」を言い合い、現地でも大いに受けたと懐かしそうにお話しされていました。



次に行われたつばさの会の皆様による枝豆体操は、参加者全員を巻き込んで会場の雰囲気をもさらに盛り上げました。この体操は野田市の介護予防体操として普及しているもので、ノリのいい音楽もあって会場内は身も心もくつろいでいきました。

さらに、キッコーマン・和郷園・ジョンソンビルさんからご提供いただいた景品の福引抽選では、メリハリの利いた司会進行とハズレ券なしという大盤振る舞いもあって会場内は熱気に包まれ大いに盛り上がりました。



つばさの会による枝豆体操

そして最後に恒例となった『チキンダンス』で会場の雰囲気は最高潮に達しました。会場全体が和やかな雰囲気に包まれ、参加者全員が今この場にいられることの幸せを感じた瞬間であったように思います。

近くにいる人と心おきなく交流の思い出を共有するという最高の時間を過ごしたのち、交流会は散会となりました。



恒例のチキンダンス♪

交流会の後、参加者からは、「同窓会という感じで良かった」、「もう少しリーズナブルなら、大勢連れてこられた」、「若い人にももっと参加して欲しかった」、「いろいろな人と会い、思い出を共有できた」などの感想をいただきましたが、初めて参加したあるグループの方が帰り際に言っていた「来てよかった」というつぶやきがとても印象に残りました。



最後に参加者全員で記念撮影